

単元名

これまでの わたし これからの わたし

教科書 下巻 p.100～109 単元の配当時間 21時間／活動時期 1 ～3 月

単元の目標

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考え、自分が大きくなったことや自分のできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

単元の評価規準

- 知識・技能  
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったことや自分のできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかっている。
- 思考・判断・表現  
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えている。
- 主体的に学習に取り組む態度  
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

指導上の留意点

過去の出来事に関連する活動においては、多様な家庭環境に十分に配慮しながら活動を設定する必要がある。災害や家庭の事情などで幼い頃の写真や思い出の品が残っていない場合もあるため、それらを一律に使用する学習活動を避けるなど、各家庭の状況に配慮したうえで学習を進めていくようにするとよい。なお、教科書下巻p.102～103では、自分の成長を振り返る起点をすべての子どもが共通して経験していると考えられる「入学してから」として例示している。同p.104～105では、それぞれの子どもが自分の知りたい過去を振り返ることができるように設定している。大切なのは、自分の成長を実感できることであって、一律に過去から順にたどることではない。子どもたちが自分の成長を実感し、これからも意欲的に生活できるように、単元計画を立てる際は十分な検討が必要である。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
大きく なった 自分を ふりかえろう（2時間） 入学してからの2年間の学習や生活を振り返り、過去の自分と現在の自分を比べながら、自分の成長やよさについて考えるとともに、自分が大きくなったことやできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付くことができるようにする。	態	自分のことをもっと知りたいという思いをもって、自分の成長を振り返ろうとしている。	1年生のときの自分の身体測定の記録や、これまでの活動の写真や動画など、さまざまな具体物から自分の成長を実感し、もっと自分が成長したことを見付けたいという思いをもって積極的に発言したり、記録カードにかいたりしようとしている。	●これまで撮りためた写真や動画、記録カードや制作物、身体測定の記録などの具体物を用意しておき、活動に合わせて提示することで、活動への意欲を高めることができるようにする。 ●身体の成長だけではなく、精神面の成長にも目を向けることができるように声をかける。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<div>自分について しらべよう (4時間)</div> <div>自分の成長について家の人やお世話になった人に聞いたり、友達とよいところを伝え合ったりして、自分の成長やよさを自覚し、多くの人の支えによって自分が成長したことに気付くことができるようにする。</div>	知	自分の成長や、それを支えてくれた人の存在、自分との関わりに気付いている。	「苦手な食べ物も友達といっしょなら食べられるようになったよ」「〇〇さんと毎日鉄棒を練習したら得意になったよ」など、できるようになったことや自信をもてるようになったことなどを自覚するとともに、身近な人との関わりや支えによって成長したり、さまざまなことに取り組むことができたりしたことに気付いている。	●幼稚園や保育所、1年生のときなど、具体的な振り返りの起点を示しながら、昔はできなかったが今はできるようになったこと、友達に自慢したいことなどについて、子どもといっしょに考えるようにする。
	思	自分の成長のようすを知るには、誰にどんなことを聞けばよいか考え、インタビューの相手や内容を決めている。	「自分が生まれたときのことを知りたいから、電話でおじいちゃんに聞いてみよう」「保育所の先生に私が小さいときのことをインタビューしたいから、お母さんが妹のお迎えに行くときにいっしょに行って聞いてみようかな」など、知りたいことをもとに、自分との関わりを意識しながらインタビューの内容や方法を考えたり、相手を決めたりしている。	●一人ではインタビューの内容や方法を考えるのは難しいため、グループでの活動とし、何を聞きたいか、誰に聞けばよいか、どんな方法で聞いたらよいか、などを友達と相談しながら決めていくことができるようにする。 ●インタビューの内容を考えたりまとめたりするのが難しい子どもがいる場合は、「〇才のとき」「起こった出来事やそのときのようす」「そのときの周りの人の気持ち」など、カードにある程度、見出しと枠を設けて、そこに記入していくように支援する。
	思	友達のよさを見付けて、それらについて友達に伝えている。	「〇〇さんは、いつも友達にやさしく声をかけていてすごいな」「〇〇さんは字がとても上手だね」など、普段の友達の様子を振り返り、得意なことを賞賛したり、頑張っていることを認めたりしながら、よいところを相手に伝えている。	●友達のすてきを見付けることができない子どもには、友達の得意なことや頑張っていることなど、具体的な視点を例示し、考えてみるように声をかける。
	態	自分の成長や自分のよさをもっと知りたいという思いをもって、家の人やお世話になった人と関わりながら調べようとしている。	「幼稚園のときはよく泣いていたんだって。1年生のときはどうだったのかな」「自分の知らないことがたくさんあったから、もっと調べてみたいな。次は〇〇さんに聞いてみよう」など、調べたことをもとに、自分の成長のようすについてもっと知りたいという思いをもって、積極的にインタビューをしようとしている。	●入学式の写真や入学当初の表現物、幼稚園・保育所・こども園のときの写真など、小さいころを想起できるような資料、頑張ったことや好きなことなどが伝わる資料などを提示し、自分で調べたくなるきっかけを作ることができるようにする。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<div>自分の せい長を まとめよう (8時間)</div> <div>自分の成長をまとめる中で、自分の成長について伝えたい内容や相手を決め、その内容や相手に適切な表現方法を工夫したり、自分自身のよさや可能性に気付いたりすることができるようにする。</div>	知	自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかっている。	「1年生のときは漢字が苦手だったけれど、毎日頑張って練習したからたくさん覚えることができたよ」「私がいろいろなことを自分でできるようになると、おじいちゃんやおばあちゃんがとても喜んでくれることに気付いたよ」など、自分の成長についてまとめる過程やできあがった成果物から、自分自身のよさや可能性に気付いている。	●なかなか自分の成長に目を向けることができない子どもには、これまでの活動の中で友達にかいてもらったカードやインタビューしたときのメモ、家の人の話などを手がかりにして考えるように声をかける。 ●身長や体重といった具体的な数字や、1年生のときに初めてかいた自分の名前など、比較がしやすいものや視覚的にわかりやすいものを提示することで、自分の成長のようすや変化をとらえることができるようにする。
	思	自分の成長について伝えたい内容や伝えたい相手を決め、その内容や相手に合わせて伝える方法を選んだり、工夫したりして作品にまとめている。	「幼稚園の〇〇先生に、小学校に入学してからできるようになったことをまとめた新聞を渡そう」「おじいちゃんは遠くにいるから、巻物によすががわかるような絵と、そのときの気持ちもかいて送ろう」など、これまで調べたことをもとに、「誰に」「何を」「どうやって」伝えたいのかを意識しながら、どんな方法でまとめたらいいか考えたり、まとめ方を工夫したりしている。	●「誰に」「何を」「どうやって」伝えるかについては、特に順番にはこだわらず、一人ひとりが考えやすいところから決めていくように助言する。なぜそれを選んだのかという根拠をしっかりとめさせることが大切である。 ●情報がたくさんありすぎると、かえってまとめるのが大変になるので、まとめた情報については、あらかじめ整理させておくといよい。例えば、XチャートやYチャートなどを活用して分類しておいたり、ステップチャートやクラゲチャートなどを活用して整理しておいたりすると、まとめるときに便利である。
	態	自分の成長を伝えたいという思いをもって、まとめ方や伝え方を工夫しようとしている。	「〇〇さんの新聞は、伝えたいことが大きな文字でかかれていてわかりやすいな。おばあちゃんに渡すポスターも同じようにしてみよう」など、自分のまとめ方を繰り返し見直したり、友達のよいところを取り入れたりして、見通しをもって積極的に活動に取り組もうとしている。	●基本的には個人の作業として進めていくが、まとめ方を決める段階や、まとめる活動の途中などに、グループや全体で交流する場を設け、全員が適切な方法や情報を選んで活動することができるようにする。 ●同じ内容、同じ方法でまとめている子ども同士をグループにすることで、自然とお互いのまとめ方を参考にしたり、協力して活動を進めたりすることができるようにする。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
せい長した 自分を つたえよう（7時間） 自分の成長を相手に伝える活動を通して、自分の生活や成長には、多くの人の 支えがあることに気づき、それらの人に 感謝の気持ちをもつとともに、これから も意欲的に生活することができるように する。	知	自分の生活や成長には、多くの人の支えがあり、大切に育てられていることに気付いている。	「発表会のときに、みんなにこここ笑顔で聞いてくれてうれしかったよ」「家の人の感想や手紙を読んで、大切にしてもらっているのがわかったよ」など、周りの人の反応から、たくさんの人が自分たちのことを大切に思ってくれていることに気付いている。	●発表会では伝えることに一生懸命になってしまうので、招待した人に発表の感想を聞いたり、発表を聞いているときの相手のようすを動画に撮って見せたりして、周りの人の反応から、自分が大切に育てられていることを実感できるようにする。 ●時間の都合上、発表会当日に感想を聞くことが難しい場合は、招待した人に感想の手紙をかいてもらい、活動を振り返る際に活用できるようにしておくのもよい。 ●保護者やお世話になった人が発表会に来ることができない子どもがいる場合は、教師や友達が感想を伝えるようにする。
	思	これまでの振り返りをもとに、自分なりに工夫しながら、自分の成長や感謝の気持ちを伝えている。	・「みんなに聞こえるように、大きな声でゆっくりと、いちばん伝えたいことを話せるようにするぞ」「発表会の流れがわかりやすいように、プログラムをかいた紙を作ろう」など、招待する人のことを意識しながら、必要な準備やりハーサルをしている。 ・「おばあちゃんに、いつもありがとうの気持ちをこめて発表しよう」など、自分の成長を支えてくれた人を意識しながら、自分の成長のようすを伝えている。	●どんな発表会にしたいのかをグループやクラス全体で話し合い、どんな準備が必要かを具体的に考えることができるようにする。 ●みんなで役割分担をして準備をすることで、自分のできることや得意なことを生かして活動することができるようにする。 ●友達同士で練習する場を設け、お互いにアドバイスし合うことで、声の大きさや話す速さに気をつけたり、伝えたい内容が伝わっているかどうかを確かめたりすることができるようにする。
	態	これまでの生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもち、これからも意欲的に生活しようとしている。	・「お母さんから、家族のためにお手伝いをするようになって成長したね、と言われたよ。とってもうれしかったです」など、発表会で新たに気付いたことや考えたことから、成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもって、もっと頑張りたいことやチャレンジしてみたいことを話したり、記録カードにかいたりしようとしている。 ・「たくさん成長してきたことがわかったから、これからも苦手なことでも頑張ってできるようになりたいな」「家の人にもっと喜んでほしいから、もっとお手伝いを頑張りたいです」など、自分の成長やこれまで頑張ったことと生活を関連づけて考えることで、これからも意欲的に過ごそうとしている。	●発表を聞いてもらった相手から、発表についての感想や、昔と今とを比べて成長を感じたところなど、具体的なコメントをもらうことで、自分の成長を実感することができるようにする。 ●3年生以降のことを具体的にイメージできるような写真や動画を提示し、これからの学校生活において、どんなことを頑張りたいのか自分なりに考えることができるようにする。